

交通安全ニュースレター

TRAFFIC SAFETY NEWS LETTER

東京都教育庁指導部
指導企画課安全教育担当
令和6年9月11日 第1号



警視庁の発表によれば、令和6年上半期に発生した高校生の交通人身事故は492件で、直近10年間で最大となっています（図1）。東京都教育庁に報告にされた、都立高等学校に在籍する生徒の交通事故においても、その件数は直近5年間で増加の一途をたどっています。

このような状況を打開し、全ての生徒を交通事故から守ることを目指し、「交通安全ニュースレター」を発行することとしました。今後、“今実際に起きていること”をお伝えするとともに、道路交通法の改定等、交通安全指導に係る最新ニュースを発信していきます。

偶発的で、予測困難に見える交通事故ですが、データを集約し、統計的な視点でみると、発生しやすい時間帯や、季節、天候等によって発生しやすい様態（事故の種類）があります。様々な情報を知り、生徒に発信していただくことで、防げる事故、守れる命があります。日常の交通安全指導の参考資料として、ぜひ御活用ください。

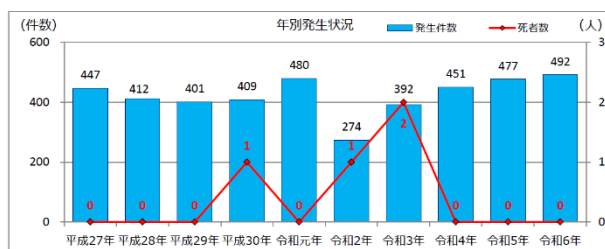


図1：平成27年から令和6年までの高校生の交通人身事故発生状況（上半期の比較） 警視庁 HP より

1 指導のポイント



登校時、交差点における事故が多い

令和6年4月1日から7月31日までの間、各学校経営支援センターから報告を受けた都立高校生の交通事故を分析すると、「第1学年」、「自転車で登校中」、「交差点における対自動車」が指導する際の重要なポイントとなります（図2）。

状態	発生頻度の最も高いもの				
	項目	4月	5月	6月	7月
自転車	① 学年	第1 学年			
	② 場所	直線（歩道）	交差点		
	③ 時間	登校時			
	④ 相手	自損	対自動車		
徒歩	最も多い 時期			●	
二輪車					

図2：令和6年度4月～7月に報告を受けた都立学校に在籍する高校生の交通人身事故の件数と態様

「一時不停止」が事故のもと

交差点（丁字路、十字路等）において発生した交通事故は、7月に入り、その発生頻度が増加しました。事故類型では「車両相互一出会い頭衝突」に分類されます。信号機のない交差点や見通しの悪い曲り角では、必ず一時停止をして安全を確認するように指導をお願いします。

～「一声事例」（安全教育プログラム第16集 p69より）～

幼稚園・・・「車の運転手さんの顔を見て、大きく手を挙げましょう。」



「気を付けましょう」、「十分注意しましょう」等、漠然とした声かけではなく、具体的なポイントを示すことで、車両を運転する人とのアイコンタクトを意識付ける指導になっています。幼児向けのため、やさしい言葉が使われていますが、指導の視点については、校種問わず、参考になる事例の1つです。

2 取組・実践紹介



自転車用ヘルメット着用に向けて

令和6年5月実施「自転車の安全な利用に関する指導及びヘルメット着用に係る調査」において、ヘルメットの着用率が高い学校における取組や指導の工夫についてヒアリングしました。

実践例として、以下の3点を紹介します。

-  自転車通学の許可を出す時など、定期的にヘルメットを持参させ確認している。
-  教員や生徒会等が、定期的に登校指導（呼びかけ）をしている。
-  ヘルメット置き場を適切に整備している。

3 お知らせ



令和6年9月より、東京都教育委員会「安全教育・防災教育ポータルサイト」内に、自転車の交通安全指導に係る特設ページを新たに開設しました。外部機関（警視庁、日本交通安全教育普及協会等）にも御協力をいただき、動画やリーフレット等、教材・資料となるコンテンツを掲載しています。

右のURL または二次元コードからアクセスできます。交通安全教育がより一層推進されるよう、積極的に御活用ください。



<https://www.anzenedu.metro.tokyo.lg.jp/jitenshakoutsuu>

～ 主なコンテンツ ～

- 東京都教育委員会の方針
- 自転車とは
- 自転車安全利用五則
- ヘルメットの着用推進について など

